

令和8年度 第1回 静岡県へき地医療支援計画推進会議

- 日 時** 令和8年7月14日（火）18時00分～19時00分
- 場 所** 静岡県庁西館4階第一会議室C（Web会議併用）
- 出席者** 竹内会長（議長）、鈴木委員、岸本委員、桑田委員、三枝委員、中村委員、仲田委員、杉山委員、安田委員、甲賀委員、森委員、川合委員、金井委員、宮本委員、鶴井院長（聖隷沼津病院）
- 事務局** 後藤健康福祉部理事、村松地域医療課長、伊藤医療人材課長ほか
- 協議事項**
- 1 会長の選任
 - 2 第9次静岡県保健医療計画の中間見直しについて
 - 3 へき地医療拠点病院の指定について
- 報告事項**
- 1 へき地医療支援事業実施状況について
 - 2 へき地の医療機関への看護師等の派遣について
 - 3 離島・へき地における看護師の特定行為研修推進モデル事業について
 - 4 令和8年度における診療所の承継・開業支援について

協議事項1 会長の選任

—事務局説明後—

○仲田委員

静岡県医師会理事の竹内浩視先生にお願いしたらいかがかと思います。ここにいらっしゃる皆様のどなたが会長になってもふさわしいと思いますが、竹内先生は県の推薦を受けて厚生労働省が選定した地域医療構想アドバイザーを務められています。地域医療行政の経験が豊富でいらっしゃいますので、ぜひ竹内浩視先生にお願いしたいと思います。

（異議なし）

協議事項2 第9次静岡県保健医療計画の中間見直しについて

—事務局説明後—

○仲田委員

急激な人口減少の影響から、病院の黒字経営が困難になると予想されます。へき地に所在する医療法人等に対する補助金・交付金があるとありがたいです。

○村松地域医療課長

国の示したガイドラインにも触れられているとおり、医療アクセスをどのように確保するかは大きな課題となっています。現在、どのような施策を打つことができるかを、内部でも検討しているところです。各市町の取組を後押しできるようなことも含めて、検討しているところですので、またその部分についてご相談をさせていただきたいなと思っております。既存の補助金等については、個別に確認し、連絡します。

(異議なし)

協議事項 3 へき地医療拠点病院の指定について

―事務局説明後―

○鶴井院長（聖隷沼津病院）

戸田診療所（沼津市）から内科を手伝ってほしいとの声がありました。聖隷沼津病院としても地域に根ざした医療を目指していること、へき地の診療に携わりたいという思いから、月1回の医師派遣を開始しました。

(異議なし)

報告事項 1 へき地医療支援事業実施状況について

報告事項 2 へき地の医療機関への看護師等の派遣について

報告事項 3 離島・へき地における看護師の特定行為研修推進モデル事業について

―事務局説明後―

○中村委員

あたご診療所の上野山先生は本当に精力的で、困ったときだけ、こちらをお願いしたいということから、天竜病院の医師派遣実績が0となっています。しかし、そうではなく、定期的でも構わないのでぜひ応援したいということでお話しさせていただきました。あたご診療所とは密なコンタクトがとれており、様々な面で協力してやっている最中ですので、数値目標も満たす形で、やっていければと思っています。

○川合委員

特定行為研修推進モデル事業について、パッケージの中にはどれくらいの項

目が含まれているのでしょうか。21 区分 38 行為のうちどれくらいを目標にしているのでしょうか。

○伊藤医療人材課長

具体的に特定行為区分が、呼吸器、人工呼吸、長期呼吸、創傷関連など、11 区分くらいございます。全てではなく、慢性疾患患者の管理や在宅療養療養患者への医療支援に重要な区分を選定をしていると聞いております。

○鈴木委員

水窪地区でも、かなり人口が減って高齢化率は高い状況にあります。絶対数が減ってる状況です。患者アクセスという問題が常に起こっておりまして、現在、浜松市と静岡県の方から委託事業ということで補助事業で、患者輸送事業をやっています。時々、利用者ゼロの日もありますが、必ず利用される方がいらっしゃいますので、今後も、県としてこの事業を継続していただきたいです。また、水窪地区は、訪問看護ステーションがなく、最寄の訪問看護ステーションまで 50 キロあり、利用されても 24 時間手厚いサービスが受けられないことが課題になっておりました。昨年 5 月からルーク訪問看護ステーションさんが、水窪にサテライトステーションを開設していただきましたが、一切補助金がないという状況なので、浜松市にも補助金を何とか出していただきたいということを強く要望しております。

○仲田委員

佐久間病院にお聞きしますが、ナースの確保はどのようにされているのでしょうか。西伊豆でも、ナースの確保が非常に大変で、看護学校に奨学金を出して、ナースを確保している状況です。また、外国人看護師・介護福祉士候補者の受入れも行っております。

○三枝委員

若い人も少なく、地元の方がナースになることはほとんどありません。やはり、奨学金という形で、学生さんに補助を出して、勤務いただいております。特に浜松市（天竜区）に、勤務いただける看護師に対する奨学金がありますが、それにプラスして、佐久間病院に勤務するという場合も、もう少しこの金額を上乗せする形でやっております。年間のご利用が 1 人、2 人という状況ではあります。現在も、利用いただいているものですから、卒業後に勤務いただいているという形になります。しかしながら、定着するかどうかは別問題となっております。今のところ外国に求めるということはしていません。

報告事項４ 令和８年度における診療所の承継・開業支援について

○鈴木委員

昨年度からの継続事業かと思えます。令和７年度は補助金が足りなくて補助を受けられなかった医療機関もいくつかあります。令和８年の予算を見ますと、結構少ないですが、こういった理由でしょうか。

○村松課長

全国的に選定の仕方が難しく、あまり手が挙がらなかったのが実情でございます。そういった背景もありまして、国の予算が１００億から２０億に、非常に激減をし、それに合わせて県の予算の方も削ってあるという状況です。

あくまで重点医師偏在対策支援区域における診療所の承継・開業事業でございまして、手を挙げれば全て採用できる、お金さえあれば採用できるというような考え方ではございません。診療所の立地状況や診療科目を考慮して選定する事業ですので、その基準に達しなかったところについては、例え予算があっても事業の趣旨からして、採用できなかったという診療所もございます。

その他全体を通じて

○鈴木委員

へき地、あるいは医師少数区域への医師派遣のことについてです。自治医科大学の卒業生についても、まず専門医をとって、それからへき地に行くという形になっていくもの为什么呢。

○後藤健康福祉部理事

自治医大卒業生につきましては、専門医の研修に入る方もいらっしゃいますが、臨床研修終わった３年目からへき地へ行かれる方もいらっしゃいます。県では、どちらにしろといった指示は出してない状況です。へき地病院の医師数も考慮しながら、病院側の希望と医師の意向が一致するところで、県は配置調整をしている形になります。

議事・報告終了